



第4学年 国語科 学習指導案

臼杵市立臼杵小学校 T1 釘宮 英幸

T2 桑原 崇彰

1. 単元名 7つのひなん道リーフレットを作って、ひなん道のよさや問題点を地域の人に広めよう～臼杵のみんなをまもり隊がゆく～

教材名 「アップとルーズで伝える」、「クラブ活動リーフレットを作ろう」（光村図書）

2. 児童について

- 「新聞記者になって、地域の人に臼杵小の防災の取り組みを伝えよう！」では、グループで新聞会社を作り、アンケート調査やインタビューし、意見を出し合いながら新聞を作って地域に発信できた。資料と対応させた記事を書くことに少し課題が残った。
- 「だれもが関わり合えるように」の学習では、自分で決めた課題の情報を思考ツールを使いながら整理する方法を学んだが、整理・分類した情報を文章にまとめて書く力は不十分である。

3. 単元の指導目標

○指導目標

書こうとするものの中心を明確にして、写真と文章を対応させながら、段落相互の関係に注意して文章を書くことができる。

○指導事項

- ・目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと 【読むこと・イ】
- ・書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと 【書くこと・ウ】
- ・指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。【伝国・ク】

4. 単元を貫く言語活動について

本単元を貫く言語活動として、「7つのひなん道リーフレットを作って、地域の人にひなん道のよさや問題点広めよう～臼杵のみんなをまもり隊がゆく～」を位置づけた。津波の避難訓練で避難する臼杵公園への7つの避難道について、3枚の写真(アップとルーズ)と説明文でリーフレットを作り地域へ発信していく。

5. 教材について

本単元の教科書教材は「アップとルーズで伝える」と「クラブ活動リーフレットを作ろう」である。「アップとルーズで伝える」の教材文は、私たちが最もよく目にしているメディアであるテレビの映像技法を述べている。段落構成や内容を捉え、説明文の書き方の工夫について学ぶのに適した教材である。アップのよさは、ひなん道の中で気をつけてほしいところに着目させるときに効果的であり、ルーズは、ひなん道全体を捉えてもらうときに有効である。

「クラブ活動リーフレットを作ろう」の教材文は、リーフレットの作り方について説明してる。教材文を参考にしながら、自分たちの7つのひなん道リーフレットの作成に生かしていく。臼杵小学校は防災教育に力を入れているので、臼杵公園への避難道のよさや問題点を地域の人を守りたいという思いを持って自分たちで調べ、相手意識や目的意識を持って取り組むことができる教材である。

6. 評価規準

- 臼杵公園への7つの避難道の高さや問題点を地域の人に分かりやすく説明するために、意欲的にリーフレットを書こうとしている。 【関・意・態】
- アップとルーズの特徴をとらえ、リーフレットを書くために必要な説明文の工夫に気づきながら読んでいる。 【読むこと・イ】
- 避難道の高さや問題点を明確にし、アップとルーズの視点で写真と文章を対応して位置づけを書くことができる。 【書くこと・ウ】
- 指示語と接続語の役割を理解している。 【伝国・ク】

7. 指導計画(全15時間)

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価
第1次	1	「7つの避難道リーフレットを作って、地域の人に広めよう」という活動への意欲を持つ。	○地域の人に臼杵公園への7つの避難道リーフレットを作って、安心して避難できるように伝えようという意欲を持たせ、学習計画を提示し、学習の見通しを持たせる。 ・福島のボランティア活動のパワーポイントを見て、意欲を高める。	【関・意・態】 活動への見通しを持って、避難道リーフレットを作ろうという意欲を持っている(発言)
		7つのひなん道リーフレットを作って、地域の人にひなん道の高さや問題点を広めよう～臼杵のみんなをまもり隊がゆく～		
第2次	2	「アップとルーズで伝える」を読み、アップとルーズの特徴をつかむ。	全文を読み、アップとルーズの特徴をつかんで、まとめさせる。	【読むこと・イ】 アップとルーズの特徴を読み取ることができる(ノートの記述)
	3	アップとルーズのよい点や問題点をまとめる。	写真や文章からアップとルーズのよい所と問題点をとらえ、マトリックスの表にまとめさせる。	【読むこと・イ】 アップとルーズのよい点と問題点を表にまとめることができる(思考ツール)
	4	段落相互の関係を目に向け、文章構成を読み取る。	段落毎に小見出しを付けたり、文章構成図を書いたりして、段落構成や対比の関係をつかませる。	【読むこと・イ】 段落相互の関係をつかみ文章構成図に表すことができる(文章構成図)
	5	説明文の書き方の工夫を見つける。	写真と文章の対応、対比、接続語の役割など、説明文の書き方の工夫を見つけさせる。	【読むこと・イ】 説明を効果的にするための工夫に気づくことができる(シートの記述)
	6	「クラブ活動リーフレットを作ろう」を参考にして、リーフレットの作り方を知る。	クラブ活動リーフレットの作り方を見て、リーフレットの特徴や作り方をとらえ、アップとルーズで伝えるで学習したことが生かされている所を見つけさせる。	【読むこと・イ】 リーフレットの書き方の工夫を見つけることができる(シートの記述)
	7	避難道を選び、リーフレットで伝えたい内容や取材の計画を立てる。	調査したい避難道を選び、グループでリーフレットで伝えたいことや、取材・調査の計画を立てさせる。	【関・意・態】 グループの中で進んで計画を立てリーフレットを作ろうとしている(行動観察)
8 9	選んだ避難道のアップとルーズで伝えたいことを取材する。	臼杵公園で避難道の高さや問題点をメモしたり、写真を撮ったりしながら取材・調査をさせ、アップとルーズで伝えたいことを考える。	【書くこと・ウ】 避難道を調査し、高さや問題点をとらえることができる(行動・シート観察)	

第 3 次 本 時	10	ルーズで伝えたい避難道 のよさや問題点をグル ープで考える。	避難道全体のよさや特徴でルーズの写 真を使って伝えたいことを、思考ツールの ピラミッドを使って話し合い、選択させ る。	【書くこと・ウ】 ルーズで伝えたいことを思考ツールを使 って選択することができる(思考ツールの 操作・記述)
	11	ルーズの説明文を完成さ せる。	写真との対応、接続語の役割など学ん だことを生かして説明文を完成させる。	【書くこと・ウ】 写真と文章を対応させながら文章を構成 している(リーフレット記述)
	12	アップで伝えたい避難道 のよさや問題点をグル ープで考える。	避難道のよさや問題点でアップの写真 を使って伝えたいことを思考ツールのピ ラミッドを使って話し合い、選択させる。	【書くこと・ウ】 アップで伝えたいことを思考ツールを使っ て話し合い選択することができる(思考ツ ールの操作・記述)
	13	アップの説明文を完成さ せる。	写真との対応、接続語の役割など学ん だことを生かして説明文を完成させる。	【書くこと・ウ】 写真と文章を対応させながら文章を構成 している(リーフレット記述)
	14	リーフレットを清書し完成 させる。	アップとルーズの説明文を対比させな がら、リーフレットを完成させる。	【書く・ウ・伝国・ク】 接続語や指示語に気をつけながら、写真 と対応させた文章を書くことができる
	第 4 次	15	リーフレット発表会を行 い、地域に広める。	完成させたリーフレットの発表会を行 い、感想を交流した後公共施設に置か せてもらい、地域の人に広めさせる。

8. 本時案 (12 / 15)

- (1) 題目 避難道のよさや問題点をアップの写真を使って伝えよう
- (2) 主眼 避難道のよさや問題点を、思考ツールのピラミッドを使いより重要性があることを話し合って選択したり、対応する写真を選んだりすることを通して、アップの説明文を書くための情報を精選することができる。
- (3) 本時の評価規準
アップの説明文で伝えたいことを思考ツールを使って話し合い、選択することができる。
- (4) 展開

学習活動	時	指導上の留意点	評 価
1. 本時の課題 をつかむ。	5	○ルーズの説明文の学習をふり振り返りながら、学習の流れを確認する。 ・グループごとに避難道のよさや全体の特徴をルーズの写真で伝えたいことをピラミッドの思考ツールで選択し、写真と対応させながら説明文を書いたことを確認する。	
めあて(課題) アップの写真で伝えたいひなん道のよさや問題点を選ぼう。			
2. アップの写 真で伝えたい ことを一人ひとり考 える。	10	○調査した時のメモを見たり、写真を見ながらアップの写真で伝えたいと思うことを、付箋に書かせる。 ・サポートの必要な人のことを想像させて(お年より・子ども・体の不自由な人) 避難道のよさや問題点を考えさせる。	

3. 思考ツールを使って、アップの写真で伝えたいことを選択する。

- 15 ○グループごとにピラミッドの思考ツールを使って、アップの写真で伝えたい避難道のよさや問題点を選択させる。
- ・よさの観点：近さ、速さ、安全、安心、便利、誰でも、通りやすい
 - ・問題点の観点：遠い、時間がかかる、危険、不便、一部の人、改善した方がよい
 - ・付箋に書いてある調査で見つけた避難道のよさや問題点をピラミッドの一番下段にはり、地域の人に伝えたいことを話し合いで選択していく。
 - ・友だちと同じ考えの付箋は重ね合わせ、共通点を見つけさせる。
 - ・話し合いで付箋を操作しながら、中段に5つ、上段にはさらに2つにしばっていく。
 - ・選んだよさや問題点に対応する写真も選択させる。
 - ・問題点については、どのように注意すればいいのか、改善点も考えさせる。
 - ・反応のある・やさしさのある話し合いを表で確認する

【書く・ウ】
アップでの説明文で伝えたいことを思考ツールを使って話し合い、選択することができる。

4. 選択したよさや問題点を交流する。

- 10 ○選択した避難道の2つのよさや問題点を、写真とともに発表する。
- ・思考ツールのピラミッドの図や選択した理由と改善点、写真を提示しながら発表する。
 - ・聴くグループは、写真とよさ・問題点に対応しているか、地域の人に伝えるのに適しているか考えながら聴き、意見交流する。

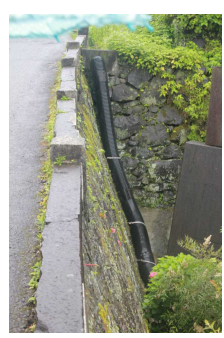
5. 学習の振り返りをする。

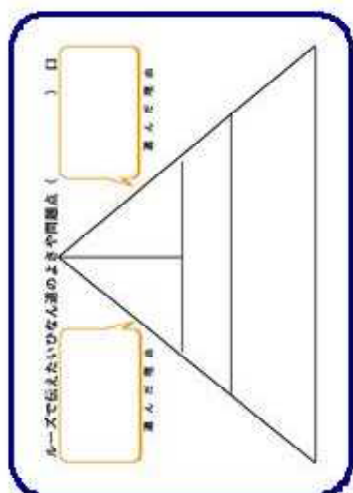
- 5 ○今日の学習の振り返りをする。
- ・学習計画表に振り返りを書き、数名に発表させ交流する。
 - ・臼杵市の防災管理監に今日の話し合いを振り返っていただく。

・アップの写真と対応させて、ひなん道のよさや問題点を考えることができた。

例：今橋口
上段にある付箋 がけがあって危ない
理由 多くの人が一度にひなんした場合、押されて落ちたら大けがをするから。さくをつけるとよい

・思考ツールのピラミッドを使えば、話し合いがしやすく、今まで見えていなかった問題点に気づき、安心してひなんするための方法を考えることができた。





ルールズで伝えたいよさや問題点のピラミッドチャート



写真

注意して下

上の写真は、

写真

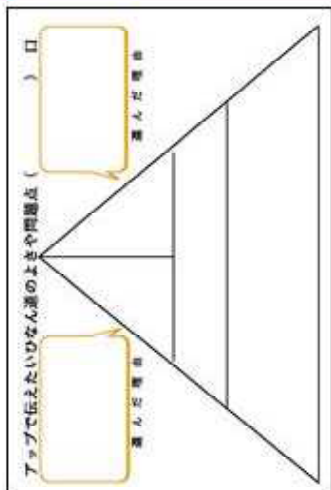
多くの人が

上の写真は、

ルールズの写真と対応した説明文

めあて

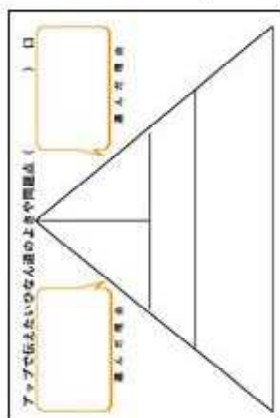
アップの写真で伝えたいひな人道のよさや問題点を選ぼう



例のピラミッドチャートと付箋

「ピラミッドチャート」を使っでの話し方

- ふせんにひな人道のよさや問題点を調査メモを見ながらたくさん書く。
- 下段に全部はって、にているものを重ねる
- 中段により伝えたいものを5つ選んで貼る
- 上段により伝えたいものを選んで2つ貼る
- 選んだ理由を話し合い書く。



発表する班のピラミッドチャートをはる

※話すポイント

- 写真を見せながら、ひな人道の良さ問題点を伝え、選んだ理由を伝える。

※聴くポイント

- 写真とよさや問題点が対応しているか
- 地域の人に伝えた方がいいことが。

ふり返り

- ・アップの写真と対応させて、ひな人道のよさや問題点を考えることができた。
- ・ピラミッドチャートを使えば、話し合いがしやすく、大切なことを選べることができた。

7つのひなん道リーフレットを作って、ひなん道のよさや問題点を地域の人に広めよう（白杵のみんなをまもり隊がゆく） 学習計画表

四年 組 番 名前（ ）

	月日	学習活動	考えたこと・感想	◎○△
①		「7つのひなん道リーフレットを作って、地域のの人に広めよう」の学習の見通しをもとう。		
②		「アップとルーズで伝える」を読み、アップとルーズの特徴をつかもう。		
③		アップとルーズのよい点や問題点をまとめよう。		
④		段落に小見出しを付け、文章構成図を表そう。		
⑤		説明文の書き方の工夫を見つけよう。		
⑥		「クラブ活動リーフレットを作ろう」を読んで、リーフレットの作り方を知ろう。		
⑦		7つのひなん道リーフレットを作る計画を立てよう。		
⑧		ひなん道のよさや問題点を取材・調査して、アップとルーズで伝えたいことを考えよう。		
⑨		ルーズの写真で伝えたいよさや問題点をグループで選ぼう。		
⑩		ルーズの写真で伝えたいことを説明文で表そう。		
⑪		アップの写真で伝えたいよさや問題点を選ぼう。		
⑫		アップの写真で伝えたいことを説明文で表そう。		
⑬		リーフレットを完成させよう。		
⑭		7つのひなん道リーフレットの発表会を開こう。		

学習をふりがえって

白杵小学校は、防災の学習にがんばっています。1年間に5回ひなん訓練をして、命を守る勉強をしています。私たち4年生は、防災新聞を作ったり、防災学習をしてきました。今回、私たちがひなんする白杵公園の7つのひなん道のよさや問題点をみんなで調査して話し合い考えました。リーフレットにしてみましたので、ぜひ読んでみて下さい。よろしくお願いします。

白杵のみんなをまもり隊メンバー
白杵小学校4年生



白杵公園への7つのひなん道リーフレット 「白杵のみんなをまもり隊がゆく」



白杵小学校から白杵公園までのひなん道



白杵小学校から白杵公園へのひなん道には、みんなが安心してひなんするための工夫と、気をつけなければならないことがあります。

ひなん道には、家やへい、電柱などたくさんあるため、頭上に注意しなければなりません。

上の写真は、ひなん道の中ほどにある交差点の写真です。ふだんは信号があるので、車は止まってくれます。しかし、地しんの時は、信号機がてい止したり、車がじゅうたいしたりすることが考えられます。さらに、事故の危険もあるため、回りをよく見て横断したり、先生やけい察の人の言うことをしっかり聴いて落ち着いてひなんすることが大切です。



上の写真は、白杵公園がどちらにあるか示した看板です。よく見てみると、日本語だけではなく、英語や中国語・ハングル語で書かれています。この看板を見ると、白杵の町を知らない日本の観光客の人だけでなく、外国から来た観光客の人も安心してひなんすることができます。



また、上の写真は白杵公園の周りにお堀の写真です。たくさんの人がひなんしてくるため、押されて池に落ちてしまうかも知れません。お年よりや小さな子ども、車いすの人などに注意して、助け合いの声をかけながらひなんすることが大切です。

このように、白杵公園までは、白杵の人だけでなく多くの人ひなんしてくるため、回りをよく見てひなんすることが大切です。

第4年学年 国語科 学習指導案

臼杵市立臼杵小学校 T 1 釘宮 英幸

T 2 中川かおり

1. 単元名 新聞記者になって、地域の人に臼杵小の防災の取り組みを伝えよう！

教材名 「新聞を作ろう」

2. この単元に係る児童の実態

○物語「白いぼうし」の学習では、松井さんの人柄を場面ごとにとらえ、松井さんの人柄をいろいろな言葉で考え、人柄マップにまとめることができた。

○説明文「動いて、考えて、また動く」の学習では、形式段落の要点や、文章の最初の言葉に注目しながら、文章構成図をグループで話し合い考えることができた。しかし、自分の考えにこだわりを持ち、考えをつなぎ、深め合おうとする姿はまだ少ない。

3. 単元の指導目標

○指導目標

新聞の特徴と作り方を知り、記事にすることを決めて、伝えたいことが明確になるように文章を書くことができる。

○指導事項

①関心のある事柄などから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。 【書く・ア】

②文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。 【書く・オ】

③互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。 【話す・聞く・オ】

④句読点を適切に打ち、必要な箇所で改行したり、文末を統一したりして書くことができる

【伝国・イ（エ）】

4. 本単元の言語活動

本単元を貫く言語活動として、「新聞記者になって、臼杵小の防災の取り組みを伝えよう！」を位置づけた。グループで新聞会社を作り、新聞の特徴・見出しの工夫・取材・下書き・清書などを討議しながら、臼杵小が取り組んでいる防災についての新聞を作り、地域に発信して行く。 【言語活動・イ】

5. 指導計画（14時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価	図書館等
新聞の特徴を知り、学習の見通しを持つ。どんな新聞を作るか話し合う。					
1 つ か む ②	1	新聞の特徴を知り、学習の見通しを持つ。	○新聞を読んだり、作ったりしたことを出し合わせる。 ○大新聞を提示し、新聞の特徴をとらえさせる。 ○学習計画について掲示し、学習の見通しを持たせる。	大新聞を見ながら、新聞の内容や特徴を見つけることができる。 (関・意・態)発言	(並行新聞読書) 大新聞 学習計画表
	新聞記者になって、地域の人に臼杵小の防災の取り組みを伝えよう！				

2	○○新聞会社を設立し、新聞を書くために、準備することを考える。	○新聞を書くために、必要なこと（取材・アンケート・下書き・わりつけ・仕上げ）や、完成までの過程ををグループで話し合い、計画を立てさせる。	ワークシートに、新聞が完成するまでの過程を、グループで話し合い考えることができる。（話す・聞く）発言	ワークシート 新聞会社の看板
新聞記事を書くために、必要な取材活動を選び、意欲的に取材する。 読み手を引きつける見出しの書き方を知る。				
3	どんな新聞を作るかグループごとに話し合う。	○相手(地域の人)・目的(臼杵小学校の防災の取り組みを発信)を意識して自分たちの新聞に載せる記事の内容を話し合わせる。(避難訓練・スタンプラリー・防災学習・携わる人の思いなど) ○写真や図などの効果や活用についても話し合わせる。	新聞の内容をグループで話し合いながら、選ぶことができる。（話す・聞く）発言	ワークシート 防災ノート
2 あ つ め る ⑥	4 5 取材にはどんな方法があるのかを知り、取材の準備をする。	○取材の方法(インタビュー・アンケート・実地調査・図書館活用)を知り、グループごとに取材方法を選択させる。 ○相手意識・目的意識を持って取材の準備をグループごとに行わせる。	記事によって、どの取材方法を選び、相手に伝わりやすくなるように準備することができる。（書く）ワークシート	取材一覧 ワークシート インタビューの見本 アンケートの見本 防災ノート 取材メモの仕方
6 本 時	6 読み手を引きつける見出しの書き方を考える。	○2つの新聞記事の見出しを比べたり、宗岡さんの話しを聞いたりし、読み手を引きつける見出しの書き方を考えさせる。	読み手を引きつける見出しのひみつを生かして見出しを書くことができる。（書く）ワークシート グループの子と、話し合い魅力的な見出しを考えることができる。（話す・聞く）発言	比較する新聞記事 宗岡さんのVTR 見出しをつける新聞記事 ワークシート
7 8	実際に取材をして、メモしたことから情報を整理する。	○メモを取りながら、教師とPTA副会長にインタビューを行わせる。 ○グループごとにアンケート調査や実地見学などを行い取材させる。	記事を書くために必要な情報を得るために、取材活動を意欲的に行うことができる。（話す・聞く）インタビュー・メモ	メモ用紙 アンケート デジカメ 防災ノート
集めた情報をもとに、グループで推敲しながら下書きを書く。 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりし、新聞を完成させる。				
3 9	集めた情報をもとに記事の下書きをして読み合い編集会議を行う。	○下書きの書きかたをとらえ、自分が調べた情報をもとに下書きを行い、グループで読み合い推敲させる。 ○記事の大きさや形を・見出し・	選んだ情報を、大事なことを落とさないようにしたり、読み手を引きつける見出しを考えたりして、下書きすることができる。	下書き用紙 マス目のついた新聞用紙 防災ノート

ま と め る	10	写真や図の位置を考えながら わりつけを考えさせる。 ○学習した、読み手を引きつける 見出しを考えさせる。	(書く)下書き	
④	11 12	記事を清書し、新聞を完 成させる。 ○記事に間違いがないかを確認 し、丁寧な字で清書させる。 ○全員の記事を合わせて防災新 聞を完成させる。	記事をわりつけ、文章や図を 清書し、新聞を完成すること ができる。(書く)清書	下書きの用紙 清書の用紙 防災ノート
新聞を読み合い、互いのよさを見つけ伝え合う。 地域の人に読んでもらうために、各施設に掲示の依頼をする。				
4 つ た え る	13	新聞を読み合 い、感想を伝 え合う。 ○各新聞会社の新聞を読み合 い、付箋に感想を書いて交流 し合あわせる。 ○学習をふり返り、新聞作りの方 法をこれからの学習に生かして いく。	新聞を見合い、内容や書き 方の良いところを付箋に書く ことができる。(書く)付箋	付箋
②	14	地域の人に、 新聞を読んで もらおう。 ○観光交流プラザ、公民館、サー ラ・デ・うすき等に、自分たちの 書いた新聞の掲示を依頼させ る。	相手に目的が伝わるように話 すことができる。 (話す・聞く)依頼	依頼の電話 依頼の手紙

6. 本時案

(1) 題材名 読み手を引きつける見出しの書き方を考えよう

(2) 主眼 読み手を引きつける見出しのひみつを、新聞記事を比較したり、新聞記者宗岡さんのVTRを見たり、新聞記事の見出しをグループで話し合っ書いたりしながらとらえ、要約することのよさや効果的な表現方法を理解することができる。

(3) 授業仮説 読み手を引きつける新聞記事の見出しについて、2つの新聞記事を比較してそのよさを見つけたり、新聞記者の宗岡さんの見出しをつける工夫を聞いたりすれば、グループで魅力的な見出し練り合い、考えることができるであろう。

(4) 気になる子への支援

2つの見出しを比較してどちらが読みたくなるか考えさせ、なぜ選んだのかをワークシートにまとめさせたり、実際の新聞記者である宗岡さんのVTRのひみつを整理して提示したりし、グループのみんなの話を聞きながら考えさせる。

(5) 展開

学習活動	時	指導上の留意点	評価規準
1. 新聞の特徴の中から見出しに注目させ、課題をつかむ。(つかむ)	5	○大新聞の中の見出しに着目させ、見出しは記事の内容を短い文で読みたいと思わせるものであり、記事の字よりも大きく表されていることをふり返らせる。	

		<p>○中川記者と釘宮記者が書いた2つの新聞記事を掲示し、どこか違うか考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記事の内容は同じだが、見出しだけが違う <p>○課題を提示する。</p>	
読み手を引きつける見出しのひみつにはどんなものがあるだろうか。			
2. 2つの新聞記事の見出しを比較し、どちらが読み手を引きつける見出しか考える。 (あつめる)	10	<p>○ワークシートにまず一人ひとりでどちらの見出しが良いか理由を明確にして考えさせる。</p> <p><中川記者の方がよい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・短い方がよい ・続きが読みたくなる ・伝えたいことが書いてある ・インパクトがある <p><釘宮記者の方がよい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・くわしく書いてある ・何があったかわかりやすい <p>○体言止め・倒置法・具体的な数字・5W2Hを入れること等も考えられるが、今回は、宗岡さんのひみつと比べられるような見出しを提示する。</p> <p>○一人ひとり自分の考えを持った後、グループでどちらが読み手を引きつけるか話し合いをし、意見をまとめ発表させる。 (学び合いの場1)</p>	<話す・聞く・オ> 自分の考えた見出しを伝え、グループで話し合うことができる。
3. 新聞記者宗岡さんのVTRを見て、読み手を引きつける見出しのひみつを理解する。 (あつめる)	7	<p>○子どもたちの意見が出た後、新聞記者の宗岡さんのVTRを見て、読み手を引きつける見出しの書き方のひみつを整理する。</p> <p>○(宗岡さんの4つのひみつ)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①一番大切な部分を伝える。 ②できるだけ10文字以内で書く。 ③漢字とひらがなをまぜる。 ④みんなで知恵を出し合う。 <p>○宗岡さんのひみつと、自分たちが考えた意見を比べ、相違点を確認させる。</p> <p>○中川記者と釘宮記者の見出しをふり返り、中川記者の方が読み手を引きつける見出しだと言うことに気づかせる。</p>	
4. 学んだことを生かして、新しい新聞記事に、グループで見出しをつけ、交流する。 (まとめる)	18	<p>○学んだこと(自分たちが考えた読み手を引きつける見出しのひみつと、宗岡さんの4つのひみつ)を生かし、新しい記事にグループで見出しを考えさせる。 (学び合いの場2)</p> <p>○新聞記事を読んで、一番伝えたいと思う所(記</p>	<書く・ア> 読み手を引きつける見出しをつけるポイントを生かしながら見出しを書くこと

<p>5. 感想を交流し、まとめをする。 (つたえる)</p>	<p>5</p>	<p>事の要点)に赤鉛筆でそれぞれ線を引かせる。ができる。</p> <p>○見出しを考えるときに、学んだことを生かして書くように指導する。</p> <p>○ワークシートにいくつか見出しを出し合った後、一番いいと思うものをホワイトボードに書き、発表させる。</p> <p>○考えが出ない時は、「真央ちゃん○○」と考えるヒントを掲示し、考えさせる。</p> <p>○5グループの見出しから、一番読みたくなる見出しを考え、交流する。</p> <p>○今日の学習をふり返り、感想を出し合う。</p> <p>○まとめをする。</p> <div data-bbox="596 680 1206 909" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>読み手を引きつける見出しは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 要点をおさえ ・ 10文字ぐらい ・ 漢字とひらがなをまぜ ・ みんなの知恵を出し合うとよい </div>	
-------------------------------------	----------	--	--

6 / 3

どちらが読みたくなる見出しかな

中川記者

「神橋ルース」をゆく!

釘宮記者

イテロ一選手とトロボ 匠代12位に奪冠

課題

読み手を引きつける見出しのひみつには、どんなものがあるだろうか

○比較してみて

中川記者の方がよい

- ・短い方がいい
- ・一番伝えたいことを書いている
- ・読者が読みたくなる
- ・インパクトがある

○宗岡さんの見出しのひみつ

- ・大切な部分を伝える(単語)
- ・できるだけ十文字くらいで書く
- ・漢字とひらがなをまぜる
(晴天・はじける笑顔)
- ・みんなの知恵を出し合う

釘宮記者の方がよい

- ・くわしく書いている
- ・何があったかわかりやすい

いかして考えよう

1 ほん

2 ほん

3 ほん

4 ほん

5 ほん

読み手を引きつける見出しは、要点をおさえ・十文字くらいで・漢字とひらがなをまぜ・みんなの知恵を出し合うとよい。

新聞を作ろう 学習計画表

四年 組 番号 名前 ()

※新聞記者になって、地域の人に臼杵小の防災の取り組みを伝えよう！

	月日	課題	考えたこと・感想	◎○△
①		新聞のとくちょうを 発見して、学習の見 通しをもとう。		
②		新聞会社を作って、 新聞を書く計画を立 てよう。		
③		どんな新聞を作るか、 新聞会社ごとに話し 合おう。		
④				
⑤		取材には、どんな方 法があるだろうか。		
⑥		読み手を引きつける 見出しのひみつには、 どんなものがあるだ ろうか。		
⑦				
⑧		取材をして、情報を 整理しよう。		
⑨				
⑩		取材した事をもとに 記事の下書きをして、 へんしゅうかいぎを 開こう。		
⑪				
⑫		記事を消書して、新 聞を完成させよう。		
⑬		新聞を読み合い、感 想を伝え合おう。		
⑭		地域の人に新聞を読 んでもらおう。		

第5学年 国語科 学習指導案

平成27年11月20日(金) 5校時
 東雲小学校 5学年 23名
 指導者 岡田 豊

1. 単元名 上浦の防災について自分の考えを持ち、意見文を書いて市役所の方に読んでもらおう
 教材名 世界遺産 白神山地からの提言 一意見文を書こう一

2. 単元の指導目標

- 自分の考えを明確に表現するため、適切に文章を書こうとしている。 【関心・意欲・態度】
- 地域の防災に対する意見を持ちながら、地域の防災について意識を高めることができる。 【関心・意欲・態度】
- 多様な文章や資料を比べながら読み、自分の考えを深め、その考えが伝わるように根拠を明確にして意見文を書くことができる。 【書くこと ア】
- 総合的な学習の時間との関連を踏まえ、防災に関する取材や調べ学習などを通して知識を深め、事実に基づいた意見を持ち、相手に伝えることができる。 【書くこと エ、カ】
- 調べたことの実事とそれに対する自分の意見など、文章の構成を考えながら、伝えたいことが効果的に伝わるような書き方を工夫できる。 【知識・理解 イ(カ)(キ)】

3. 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えたことを伝えたいという願いを持ち、学習の見通しを持つようとしている。 ・事実や考えたことなどを関係づけたり比較したりしながら効果的に書き表そうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理している。 【ア】 ・資料などを用いたり、友だちの考えを参考にしたりしながら自分の考えが伝わるように書いている。 【エ】 ・書いたものを発表しあい、表現の仕方に着目して助言し合っている。 【カ】 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成を考えながら、伝えたいことが効果的に伝わるような書き方を工夫している。 【イ(キ)】 ・語感、言葉の使い方に対する感覚などについて意識して書いている。 【イ(カ)】。

4. 単元における「伝えあう力の育成」のための工夫

自分の考えをもつ	自分の考えと比べる	自分の考えをまとめる	交流する
<ul style="list-style-type: none"> ○自分の経験や現地について調べたことをもとに意見をもたせる。 ○防災に関する情報を入手し、自分の考えを深め、ワークシートに書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ活動の中で、対立する二つの立場を想定し、テーマに関する考え方を整理させながら友だちと考えを交流させる。 ○ベン図などを用いて、自分の考えと友だちの考えを視覚的にとらえられるようにし、自分の意見をより深めながらまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○出来上がった意見文を発表し合い、伝わり方や文章表現などについて助言させる。 	

5. 指導計画

次・時	主な学習活動	主な支援	他教科等との関連	評価
前時 まで	(国語科) ○『わが町ベストスリーを決めよう』 ・上浦に来る観光客におすすめの観光スポットを自分たちなりに考え、意見交換しながら決める活動をしている。 ○『意見こうかん会をしよう』 ・上浦の眺めの良い観光スポットはAかBか、自分の考えを持って討論をする活動をしている。		(総合的な学習の時間) ○『上浦の観光地ってどんな所があるかな』 ・生活の中で知っていること、よく観光客が来ている所、市のパンフレットなどの情報を持ち寄って地元の観光事情を調べる活動をしている。 ○『防災について調べよう』 ・防災について、知らないことや気になることの調べ学習をしている。	
一 1	地域の防災について、意見文を書くための学習計画を立てる。	これまでの防災に対する取り組みや経験を振り返りながら、自分の考えをしっかりと持てるよう、単元のゴールをイメージさせる。	(総合的な学習の時間) 上浦の観光について、防災対策の整備と関連付けて調べる。	関防災について、考えたことを伝えたいという願いを持ち、学習の見通しを持つようとしている (態度・発言)
(ゴール)上浦の防災について自分の考えを持ち、意見文を書いて市役所の方に読んでもらおう				
二 2	「白神山地からの提言」の全文及び資料を読む。	白神山地の自然保護の全体についてつかむことができるよう、資料と並行させながら読ませる。	↓	書考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理している (態度・発言・記述)
三 四	白神山地の自然保護についての二つの立場について理解し、自分の考えをまとめる。	・「緩衝地域」「核心地域」などの用語等を説明したり、教科書の資料がどの立ち場で考えられるのかななどを整理させながら自分の考えを持たせる。 ・ベン図を用い、それぞれの意見の根拠になる資料等がどの考え方につながるか視覚的に確認させる。	「『観光地としての上浦』を守るためには、どんな防災対策をすればよいか」をテーマにし、収集した資料や情報をまとめさせる。 ※市の防災危機管理課の方をゲストティーチャーに招き、テーマに関連したことについて説明してもらおう。	
五	意見文の書き方についておさえる。	・教科書の意見文の例を参考にさせ、意見文の構成をとらえさせる。		知文章の構成を考えながら、伝えたいことが効果的に伝わるような書き方を工夫している (発言・記述)
	意見文を読み合い、助言し合うなどの交流をし、意見文を完成させる。	・家庭学習で書いてきた意見文をグループで読み合い、伝わり方や文章表現などについて付箋に書かせたりしながら	子どもと確認する視点 「観光地である上浦を守る」とは ・対象物を保全する ・景観や環境を守る	関事実や考えたことなどを関係づけたり

6 7		ら交流させる。 ・交流の中で自分の意見を見直させ、友だちの付箋を参考にさせながら意見文を完成させる。	・そこに住む人々の命を守る ・観光地の「町」自体を守る ・国語の本時まで意見を持たせる。	比較したりしながら、効果的に書き表そうとしている（記述） 書友だちの意見文に適切な助言ができています（発言・記述）
8 （本時）	総合的な学習の時間で調べたことを出し合い、二つの立場について話し合う。	防災対策優先と景観優先の意見を出し合い、ベン図で視覚的にとらえながらワークシートにまとめさせ、自分の立場をはっきりさせる。		書資料を用いたり、友だちの考えを参考にしたりして、自分の考えが伝わるように書いている（発言・記述）
9	意見文を書く。	白神山地の意見文を思い起こさせ、文章の構成に気をつけさせながら意見文を書かせる。		知語感、言葉の遣い方に対する感覚などについて意識して書いている（記述）
10	書いた意見文を交流し合い、意見文を完成させる。	・グループで読み合いをしながら伝わり方や文章表現などについて付箋に書かせたりしながら交流させる。 ・交流の中で自分の意見を見直させ、友だちの付箋を参考にさせながら意見文を完成させる。	できあがった意見文を市役所に持って行くことを確認する。	書友だちの意見文に適切な助言ができています（発言・記述）

6. 本時案（8／10）

- (1) 題目 観光に対する防災対策について考えを出し合い、自分の意見をまとめよう
- (2) 主眼 地域の防災整備について、「観光地を守る」視点から考えた意見を出し合い、話し合う活動を通して、地域の現状を踏まえながら何を優先することが観光地の保全につながるのか考え、資料や友だちの意見を参考にしながら自分の意見を深めることができる。
- (3) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点	評価
1. 本時の見通しをもつ。	2	○学習計画を確認し、本時は総合的な学習の時間に進めてきたテーマ「『観光地である上浦』を守るためには、どんな防災対策をすればよいか」について自分の意見をまとめることをおさえる。	
(めあて)「観光地である上浦の防災対策」についての意見を交流し、自分の考えを見直したり、深めたりしよう			

2. グループで意見を交流する。	20	<p>○前時（総合的な学習の時間）までに考えてきたそれぞれの考えをグループの中で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの視点を確認する。 	<p>【グループでの交流の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立場がはっきりしているか ・「観光地を守る」の視点に合っているか ・これまでの学習や資料が活かされているか（根拠がはっきりしているか） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベン図のワークシートを準備し、それぞれで意見を分けながら交流させる。 ・それぞれの考えに対し、明確にしたり補ったりする助言等も交流させる。 ・交流の中で考えが変わったり、付け加えたりしたいことがあれば、書いても良いことを伝える。 ・意見は一つに絞らなくてよいことを伝える。
3. グループで出した意見を発表する。	13	<p>○それぞれのグループで出した意見を発表させ、板書（ベン図）で整理する。</p>	<p>※ベン図の予想</p> <p>〈上浦の町が優先〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い防波堤を作って避難の時間を確保する ・避難ビルを作り観光客も逃げられるようにする ・被害を最小限に食い止めるハード整備をする <p>〈観光が優先〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客のために海が見えるところは残す ・避難地までの道路整備をする ・避難地の整備をする <p>〈両方を活かす〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観のじゃまにならない所に避難ビルを作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・出た意見は教師が板書しながら、ベン図で整理していく。
4. 話し合いや発表をもとに、自分の考えをまとめ、ふり返りをする。	10	<p>○全体交流での意見が出揃ったところで、自分の考えをふり返らせ、数名発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに自分の考えを書かせる。 <p>〈ふり返りの項目〉</p> <p>◇グループや全体の交流で考えを変えたことや気づいたこと、感じたこと</p>	<p>書資料を用いたり、友だちの考えを参考にしたりしながら自分の考えが伝わるように書いている。(エ)</p>	

(ふり返りの予想)

- 防波堤を作ることが一番いいと思ったけど、観光客の見方を考えると、豊後二見浦は見えやすい方がいいと思った。自分は作らない方がいいと思う。
- 観光客は地域の事情を知らないから、もし津波が来るとなった時すぐに非難できる整備も必要だと思う。
- 観光地を守るということは、人を守り、復興することだと思う。命を守る整備が必要だと感じた。

- 2～3人に発表させる。
- 次時は実際に意見文を書くことを伝える。